

から、加齢の影響も加わったことによると考えられる。

死因として報告されたエイズに特徴的な疾患の累積報告数では、カリニ肺炎が105件と最も多かった。現在、カリニ肺炎や非定型抗酸菌症は予防が可能な疾患であるが、この調査は治療法の十分でない時期からの累積であり、治療法の発達の経過を含むことから当然である。しかし、1997年においてもこれらの疾患が死亡例において高頻度に認められたことは残念である。ただし、1998年には報告がなくなり、本邦の治療水準が全国的に向上したものと考えられる。これには健康保険による診療の制約も影響していると考えられ、免疫機能の低下した患者に対する日和見感染症の最新の治療管理方法の普及とそれらに対する健康保険の適応の確立が重要である。

Ⅷ. 抗 HIV 療法の状況と免疫機能

広島大学医学部附属病院 輸血部

東京医科大学病院 臨床病理科

国立大阪病院 総合内科 臨床研究部ウイルス室

高田 昇

山元 泰之

白阪 琢磨

1. CD4 陽性細胞数別に区分した患者数

1997 年と 1998 年の調査で、調査票の様式 1 により HIV 感染者として詳細な情報が提供された症例、それぞれ 800 例と 789 例について、CD4 陽性細胞数により 6 群に分けて人数と構成割合（不明例を除く）を求めた。

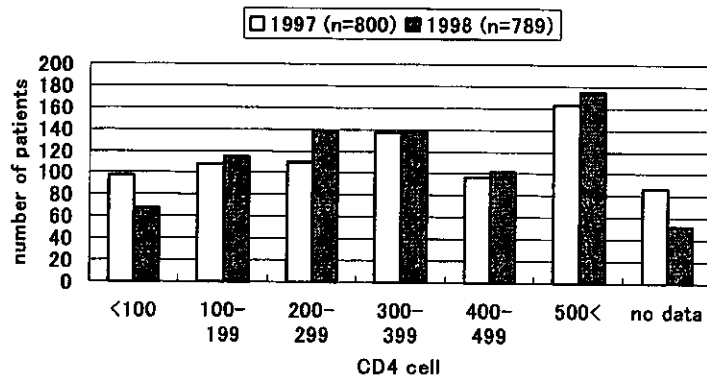
CD4 陽性細胞数により分類した患者数は 1997 年に比べて 1998 年では 100 個未満の症例数が 98 例から 68 例、不明が 87 例から 52 例へと減少し、それ以外の群はどれも増加した。特に 200 個代の患者数は 110 例から 139 例へと増加したのが目立つ。

表 Ⅷ-1 CD4 陽性細胞数別患者数と構成

CD4	1997		1998	
	人数	構成%	人数	構成%
<100	98	13.7%	68	9.2%
100-199	108	15.1%	115	15.6%
200-299	110	15.4%	139	18.9%
300-399	137	19.2%	138	18.7%
400-499	97	13.6%	102	13.8%
500<	163	22.9%	175	23.7%
小計	713	100.0%	737	100.0%
不明	87	—	52	—
合計	800	—	789	—

図 Ⅷ-1

CD4陽性細胞数別患者数



2. 血漿中 HIV-1RNA 量別に区分した患者数

1997年と1998年の調査で、調査票の様式1によりHIV感染者として詳細な情報が提供された症例、それぞれ800例と789例について、血漿中HIV-1RNA量によって6群に区分して人数と構成割合（RNA量不明例を除く）を求めた。

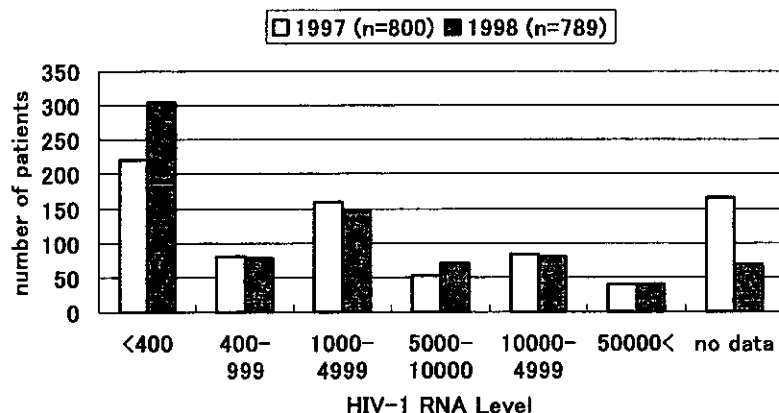
血漿中HIV-1 RNA量により区分した患者数は、1997年に比べて1998年では不明の症例数が165例から69例へと大幅に減少し、400コピー/ml未満の患者数が221例から305例へと顕著に増加した。

表 VIII-2 HIV-RNA 量別患者数と構成比率

HIV-1RNA 量	1997		1998	
	人数	構成%	人数	構成%
<400	221	34.8%	305	42.4%
400-9999	80	12.6%	77	10.7%
1000-4999	159	25.0%	146	20.3%
5000-9999	53	8.3%	71	9.9%
10000-49999	83	13.1%	81	11.3%
50000<	39	6.1%	40	5.6%
小計	635	100.0%	720	100.0%
不明	165	-	69	-
合計	800	-	789	-

図 VIII-2

HIV-1RNA量別患者数



3. 治療状況と CD4 陽性細胞数別患者数

1998 年の調査で回答を得た 789 症例を、治療の有無により未治療の 193 例と治療中の 596 例とに分類したうえで、CD4 陽性細胞数の区分毎に患者数と構成割合を比較した。

治療群における CD4 陽性細胞数は、1997 年の調査開始時に治療により既に増加している症例も含まれているので、治療開始の時期からの治療効果の程度や、今後さらに強力な治療を行う必要性についての評価は困難と考えられる。抗 HIV 治療の有無により免疫機能の状況をみると、未治療群では半数以上の症例で CD4 陽性細胞が 500 個以上を保持しており、未治療群の多くの症例はこの時点では治療を開始する必要がないため、経過観察を受けているものと考えられた。

感染後十数年を経た時点でも治療なしで CD4 陽性細胞数が 500 個以上と免疫機能が維持されている症例が、1998 年の時点で 77 例存在しており、感染例 1432 例の 5.4%であった。CD4 陽性細胞数が 200 個以下では、本来は抗 HIV 治療の開始が強く推奨されるが、なお未治療の症例が 13 例登録されていた。この中には、治療についての同意の得られない症例も含まれていると考えられる。

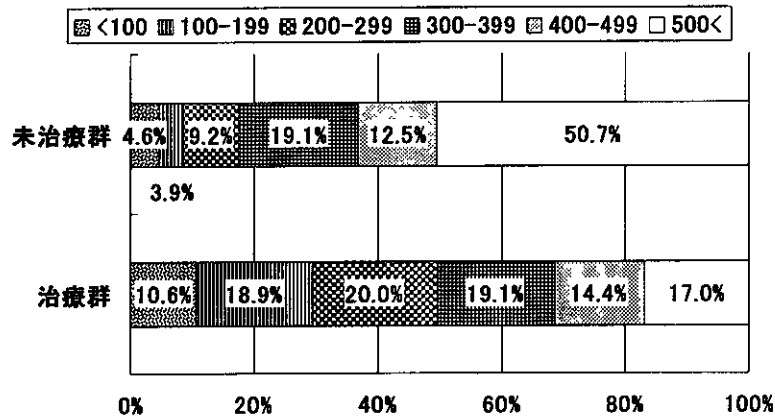
治療群では CD4 陽性細胞数が 200 個代である症例が 19.7%と最も多いが、CD4 陽性細胞数は広い範囲に分散しており、治療下でも CD4 陽性細胞数が 200 個未満の症例が 170 例 29%存在していた。

表 Ⅷ-3 未治療群および治療群における CD4 陽性細胞数別患者構成

CD4	未治療		治療	
	人数	構成%	人数	構成%
<100	7	4.6%	61	10.4%
100-199	6	3.9%	109	18.6%
200-299	14	9.2%	115	19.7%
300-399	29	19.1%	110	18.8%
400-499	19	12.5%	83	14.2%
500=<	77	50.7%	98	16.8%
小計	152	100.0%	585	100.0%
不明	41	—	11	—
合計	193	—	596	—

図 Ⅷ-3

CD4陽性細胞数区分別患者数の割合 1998/5/31現在



4. CD4 陽性細胞数と血漿中 HIV-1 RNA 量の関係

1998年の調査でCD4陽性細胞数と血漿中HIV-1RNA量の両者の成績が集計された調査票について未治療群と治療群に分けて、CD4陽性細胞数と血漿中HIV-1RNA量との関係を図示した。未治療群および治療群共に血漿中HIV-1RNAが低値の症例でも、CD4陽性細胞数は低値から高値まで広範囲に渡って存在した。しかし、血漿中HIV-1RNAが高値例にはCD4陽性細胞数の低値例が多く含まれた。

図 Ⅷ-4 未治療群 107例

未治療群のCD4+細胞とHIV-1 RNA

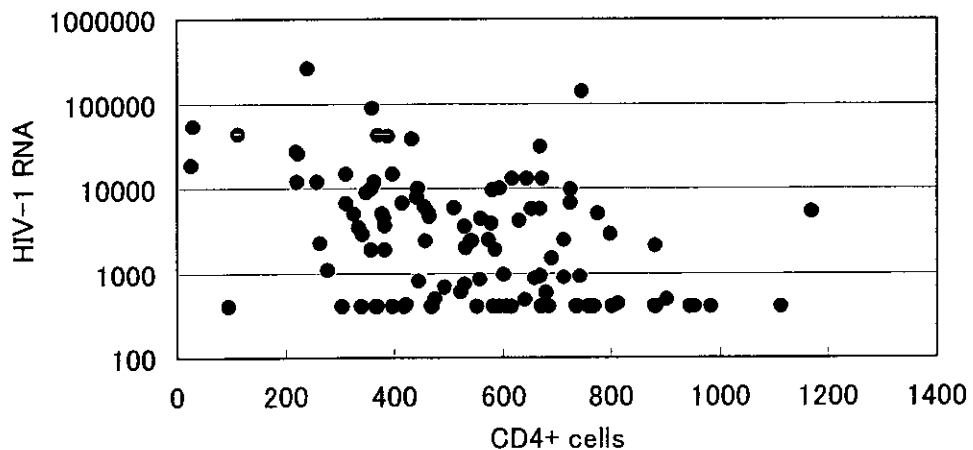
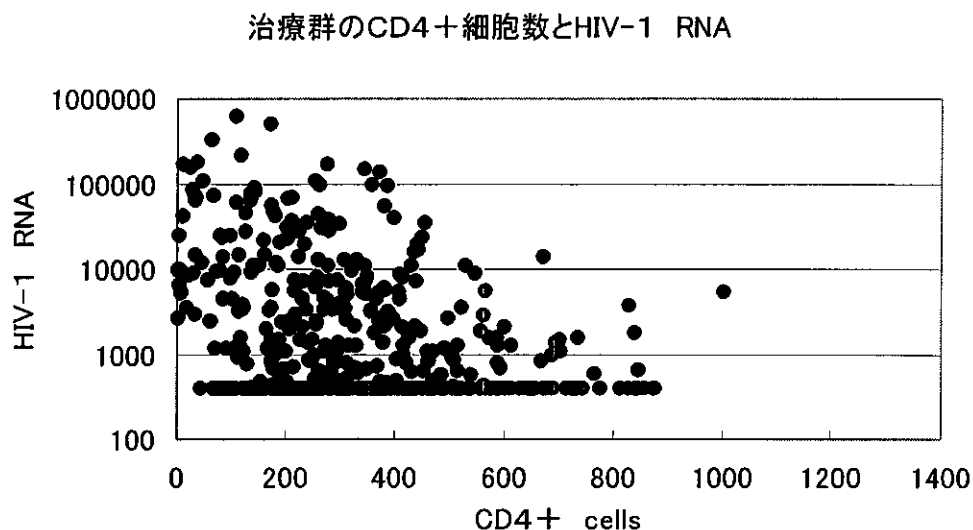


図 Ⅷ-5 治療群 489 例



5. 治療状況と HIV-1 RNA 量区分別患者数

1998 年の調査において調査票 1 の回答を得た 789 症例を、治療の有無により未治療の 193 例と治療中の 596 例とにさらに分類したうえで、HIV-1RNA 量による区分毎に患者数と構成割合を比較した。

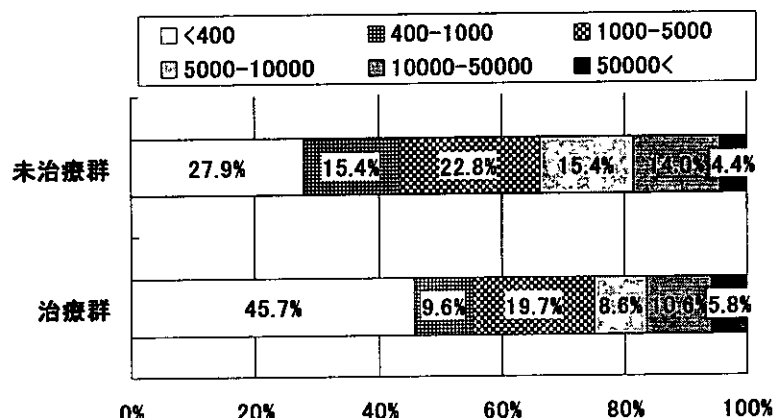
治療群における CD4 陽性細胞数は、1997 年の調査開始時に治療により既に増加している場合も含まれるので、治療開始の時期からの治療効果の程度やさらに強力な治療の必要性についての評価は困難と考えられる。抗 HIV 治療の有無により区分し、血漿中 HIV-1 RNA 量を比較した(表Ⅷ-4)。未治療群でも 38 例(27.9%)は HIV-1RNA 量が 400 コピー/ml 未満個以上を保持しており、全感染者 1432 例中の 2.7%に当たった。感染後十数年を経た時点でも治療なしで HIV-1RNA 量が 400 コピー/ml 未満で維持されている症例は、いわゆる長期未発症の症例と考えられた。治療群では HIV-1RNA 量が 400 コピー/ml 未満の症例が 267 例あり 45.7%を占めていた。しかし、10000 コピー/ml 以上の症例も 96 例(16.4%)存在しており、治療が容易ではない症例が多数存在することが示されている。

表 Ⅷ-4 未治療群と治療群に分けた血中 HIV-1RNA 量区分別患者数と構成割合

HIV-1 RNA * Copies/ml	未治療群		治療群	
	人数	構成%	人数	構成%
<400	38	27.9%	267	45.7%
400-999	21	15.4%	56	9.6%
1000-4999	31	22.8%	115	19.7%
5000-9999	21	15.4%	50	8.6%
10000-49999	19	14.0%	62	10.6%
50000 =<	6	4.4%	34	5.8%
小計	136	100.0%	584	100.0%
不明	57	—	12	—
合計	193	—	596	—

*1998 年の HIV-1 RNA による分類

HIV-RNA量別構成比率 1998/5/31現在



未治療群について1998年の血漿中HIV-1RNA量により区分し、患者数、構成割合、CD4陽性細胞数の中央値、血漿中HIV-1RNA量が400コピー/ml未満の群とその他の各群との間で、CD4陽性細胞数についての差の検定を行った(表Ⅷ-5)。CD4陽性細胞数の中央値はHIV-1RNA量の増加と反対に低下しているが、検定の結果では血漿中HIV-1RNA量が400コピー/ml未満の群は1000-4999コピー/ml、10000-49999コピー/ml、50000コピー/ml以上の各群のみとの間で有意差を認め、各群の構成人数が少ないため判断が難しいが、RNA量の高値例ほどHIV感染症の進行が早いことが知られており、またこの結果でRNA量の増加とによりCD4陽性細胞数の中央値も減少していることを考えると、HIV-1RNA量が10000コピー/ml以上でCD4陽性細胞数が300個以下の症例には、強力な抗HIV療法を開始することを推奨するのが妥当と思われる。

さらに、1998年のRNA量による区分毎に、1997年と1998年のCD4陽性細胞数について対応のあるt検定を行った(表Ⅷ-6)。10000-49999コピー/mlの区分以外には有意な差は認めなかったが、CD4陽性細胞数の前年比の中央値はRNA量の高い群ほど僅かに低下する傾向を示している。各区分毎の人数が少ないために、統計学的に明らかにすることは難しいかもしれないが、遅いながらも徐々に病態は悪化していると考えられることから、引き続き個々の症例の状況の変化を注意深く追跡し観察することが重要である。

表 Ⅷ-5 未治療群の血漿中HIV-1RNA量区分別の患者数と構成割合

HIV-1 RNA Copies/ml	人数	構成%	CD4 中央値	CD4 t-test V.S. <400
<400	38	27.9%	642	—
400-999	21	15.4%	639	N.S.
1000-4999	31	22.8%	530	<0.05
5000-9999	21	15.4%	461	N.S.
10000-49999	19	14.0%	366	<0.05
50000=<	6	4.4%	301	<0.05

表 Ⅷ-6 未治療群の血漿中 HIV-1 RNA 量区分別 CD4 陽性細胞数の変化

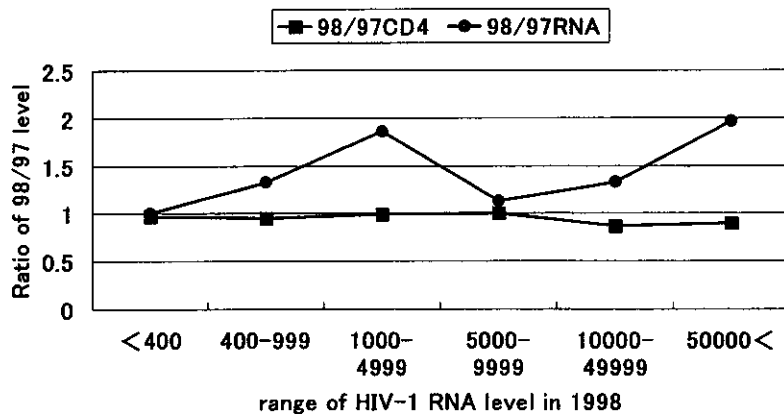
HIV-1 RNA Copies/ml	CD4 (1997) 中央値	CD4 (1998) 中央値	CD4 98/97 比 中央値	t-test 97 V.S. 98
<400	617	642	0.97	N.S.
400-999	623	639	0.95	N.S.
1000-4999	457	530	0.99	N.S.
5000-9999	520	461	1	N.S.
10000-49999	426	366	0.87	<0.05
50000 =<	409	301	0.9	N.S.

表 Ⅷ-7 未治療群の血漿中 HIV-1 RNA 量区分別血漿中 HIV-1 RNA 量の変化

HIV-1 RNA Copies/ml	RNA (1997) 中央値	RNA (1998) 中央値	RNA 98/97 比 中央値	t-test 97 V.S. 98
<400	400	400	1	N.S.
400-999	400	740	1.33	N.S.
1000-4999	1700	2500	1.86	<0.05
5000-9999	5900	6000	1.13	N.S.
10000-49999	14500	15000	1.33	N.S.
50000 =<	70500	115000	1.97	N.S.

図 Ⅷ-7

1998年の血漿HIV-1RNA量区分別にみた
CD4陽性細胞数とHIV-1RNA量の変化
未治療群 98/97年値比(中央値)



未治療群で1998年のHIV-1RNA量別にCD4陽性細胞数とHIV-1RNA量の前年比を見ると、図Ⅷ-7のようにCD4陽性細胞の比は僅かな低下であるが、HIV-1RNA量の前年比はHIV-1RNA量が10000コピー/ml以上の群では比の中央値が高くなっており、血漿中ウイルス量が前年より増加して、病態が悪化傾向を示していると考えられ、治療の開始が望ましいと思われる。

表 Ⅷ-8 治療群の血漿中 HIV-1 RNA 量区別患者数と構成割合

HIV-1 RNA Copies/ml	人数	構成%	CD4 中央値	t-test V.S. <400
<400	267	45.7%	345	-
400-999	56	9.6%	313	<0.05
1000-4999	115	19.7%	295	<0.05
5000-9999	50	8.6%	309	<0.05
10000-49999	62	10.6%	212	<0.05
50000 =<	34	5.8%	136	<0.05

表 Ⅷ-9 治療群の血漿中 HIV-1 RNA 量区別 CD4 陽性細胞数の変化

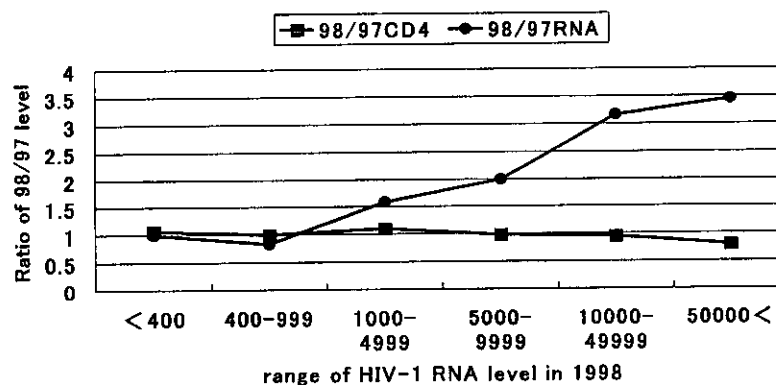
HIV-1 RNA Copies/ml	CD4 (1997) 中央値	CD4 (1998) 中央値	CD4 98/97 比 中央値	t-test 97 V.S. 98
<400	333	345	1.07	<0.05
400-999	341	313	1	N.S.
1000-4999	275	295	1.1	<0.05
5000-9999	285	309	0.98	N.S.
10000-49999	208	212	0.96	N.S.
50000 =<	135	136	0.81	N.S.

表 Ⅷ-10 治療群の血漿中 HIV-1 RNA 量区別血漿中 HIV-1 RNA 量の変化

HIV-1 RNA Copies/ml	RNA (1997) 中央値	RNA (1998) 中央値	RNA 98/97 比 中央値	t-test 97 V.S. 98
<400	400	400	1	<0.05
400-999	910	660	0.83	<0.05
1000-4999	1400	2100	1.59	N.S.
5000-9999	3300	7200	2	N.S.
10000-49999	7900	21000	3.17	N.S.
50000 =<	30000	95000	3.44	N.S.

図 Ⅷ-8

1998年の血漿HIV-1 RNA量区別にみた
CD4陽性細胞数とHIV-1 RNA量の変化
治療群 98/97年値比(中央値)



治療群では HIV-1RNA 量が 10000 コピー/ml 未満までは RNA 量の増加に対しての CD4 陽性細胞数の中央値の低下は僅かである。しかし、400 コピー/ml 未満の群との t-test による比較では、各群ともに統計学的には有意な低下を示していた。CD4 陽性細胞数について 1997 年と 1998 年との比較したところ、400 コピー/ml 未満と 1000 - 4999 コピー/ml の群で有意な増加が認められたが、その他の群では有意な差は無かった。しかし、5000 コピー/ml 以上を境に CD4 陽性細胞数の 98/97 比をみると中央値が低下していた。HIV-1RNA 量は 1000 コピー/ml 未満の群では、97 年から 98 年にかけて有意に低下しており、治療効果によるものと考えられたが、RNA の高値群では有意な差は認めなかった。むしろ、HIV-1RNA 量高値群では RNA の 98/97 比をみると中央値は増加傾向を示しており、今後の病態の悪化傾向が心配された。

6. 治療群における CD4 細胞数と血漿中 HIV-1 RNA 量の関係

治療群について、CD4 陽性細胞数と HIV-1RNA 量の双方を群分けして解析した。HIV-1RNA が 400 コピー/ml 未満を示したのは約半数程度であり、多くの症例において 1998 年時点での治療はウイルス学的には十分な効果があがっているとは言えなかった。

表 Ⅷ-11 CD4陽性細胞数別、HIV-1RNA 量別患者数

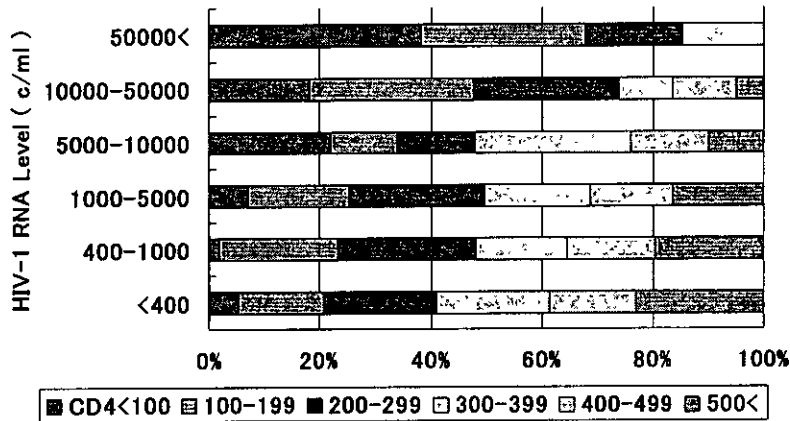
CD4	Plasma HIV-1 RNA level					
	<400	<1000	<5000	<10000	<50000	50000<
<100	14	1	8	11	11	13
100-199	40	12	21	6	18	10
200-299	53	14	28	7	16	6
300-399	53	9	22	14	6	5
400-499	41	9	17	7	7	0
500<	60	11	19	5	3	0
	261	56	115	50	62	34

表 Ⅷ-12 CD4陽性細胞数別、HIV-1RNA 量別患者構成割合

CD4	Plasma HIV-1 RNA level					
	<400	<1000	<5000	<10000	<50000	50000<
<100	5.4%	1.8%	7.0%	22.0%	18.0%	38.2%
100-199	15.3%	21.4%	18.3%	12.0%	29.5%	29.4%
200-299	20.3%	25.0%	24.3%	14.0%	26.2%	17.6%
300-399	20.3%	16.1%	19.0%	28.0%	9.8%	14.7%
400-499	15.7%	16.1%	14.8%	14.0%	11.5%	0.0%
500<	23.0%	19.6%	16.5%	10.0%	4.9%	0.0%

図 VIII-9

HIV-1RNA量別CD4別患者



一方、CD4陽性細胞数からみた免疫学的機能の評価では、HIV-1RNAが5000コピー/ml未達の群までは、図VIII-10に示すように、CD4陽性細胞数別の患者構成比は類似しており、CD4陽性細胞数の維持効果は類似して保たれているように見えた。しかし、5000コピー/ml以上を示した群は図VIII-11のようにウイルス量の増加と共にCD4陽性細胞数の減少例が多く、CD4陽性細胞数の維持効果が乏しく、病態の悪化を示す結果とも解釈できる。

図 VIII-10

治療群におけるHIV-1RNA量別・ CD4陽性細胞数別患者構成 1998/5/31現在

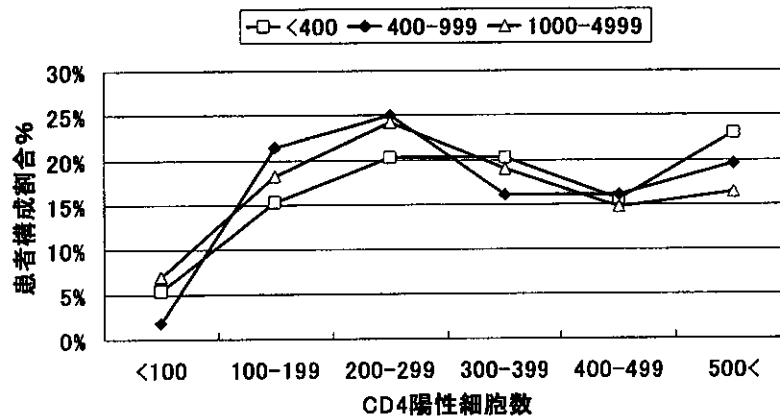
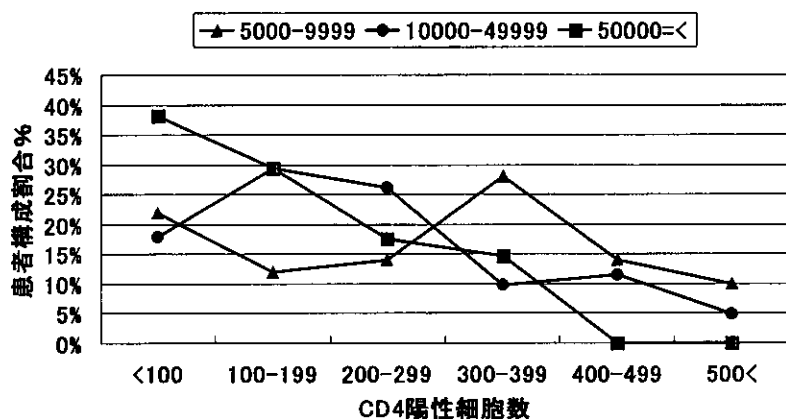


図 VIII-11

治療群におけるHIV-1RNA量別・
CD4陽性細胞数別患者構成
1998/5/31現在



7. 抗HIV薬の使用状況

1997と1998年の両方のデータがある737症例について、薬剤の使用状況について調査した結果、1998年の結果を下表に、1997年との比較を下図に示した。

1998年の治療状況は、1997年に比べて未治療、1剤治療、2剤治療が減少し、代わって3剤治療と4剤治療の数が増えてきた。また、過去に使用した薬剤の数が3剤、4剤およびそれ以上の症例も増えてきて、次第に多くの薬剤に曝露した感染者が増えていることが分かった。

表 VIII-13 薬剤の服用状況

1998年5月31日現在

薬剤数	未治療	休薬中	1剤	2剤	3剤	4剤	5剤以上
例数	171	24	26	189	301	25	1

図 VIII-12

抗HIV薬の服薬状況

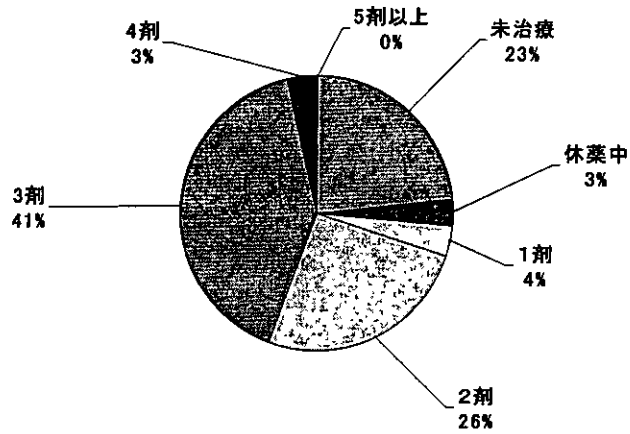
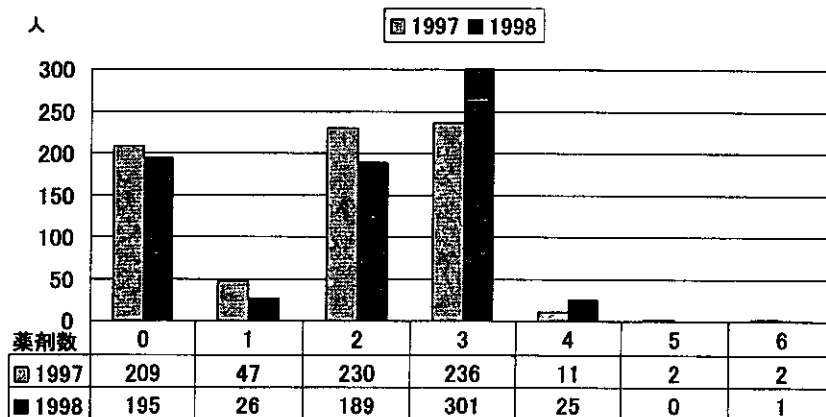


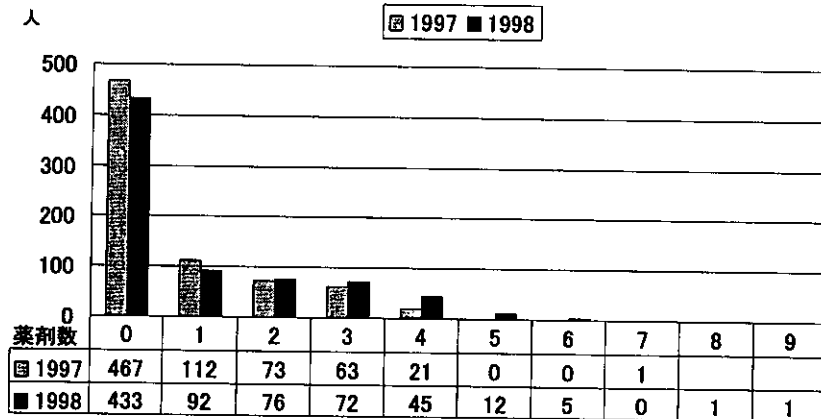
図 VIII-13

使用中の抗HIV薬剤数

血液凝固因子製剤によるHIV感染者 n=737



過去に使用した抗HIV薬剤数 血液凝固因子製剤によるHIV感染者 n=737



8. 薬剤の種類と服用状況

1998年の調査の時点で使用されていた薬剤は下記の通りの3種10剤であった。

表 VIII-14 治療薬の略名、一般名、商品名

	薬剤略名	一般名	商品名
核酸誘導体	ZDV	ジドブジン	レトロビル
	ddl	ジダノシン	ヴァイデックス
	ddC	ザルシタピン	ハイビッド
	d4T	サニルブジン	ゼリット
	3TC	ラミブジン	エピビル
プロテアーゼ阻害剤	RTV	リトナビル	ノーピア
	IDV	インジナビル	クリキシパン
	SAQ	サキナビル	インビラーゼ
	NFV	ネルフィナビル	ピラセプト
非核酸誘導体	NVP	ネビラピン	ピラミューン

1998年5月31日現在服用していた薬剤を「服用中」、それ以前に服用したことがある薬剤を「過去服用」、一度も服用していない薬剤を「なし」として調査を行った。調査結果を1997年の調査結果とともに下表と下図に示した。1998年の調査で最も多くの患者が服用していた薬剤は3TCであり349人が服用していた。

ZDVと3TCを多くの患者が服用していたが、1998年にはZDVはやや減少し、3TCは増加した。また、d4TとNFVの増加が目立っている。

一方、過去の服用が多い薬剤はZDVとddlであり、それぞれ191人と182人であった。過去の服用を入れて各薬剤の既服薬率を求めると、ZDVには既に70%、3TCには55%の患者が曝露しており、これらの治療薬に対する耐性ウイルスが多数の患者に発生することが心配される。

表 Ⅷ-15 抗HIV薬の服用状況

薬剤名	1998				1997			
	服用中	過去服用	なし	合計	服用中	過去服用	なし	合計
ZDV	327	191	219	737	369	120	248	737
ddI	103	182	452	737	100	179	458	737
ddC	68	121	548	737	85	95	557	737
d4T	188	29	520	737	119	26	592	737
3TC	349	55	333	737	310	29	398	737
RTV	39	30	668	737	38	26	673	737
IDV	121	67	549	737	120	38	579	737
SAQ	73	43	621	737	56	15	666	737
NFV	141	24	572	737	74	9	654	737
NVP	0	5	732	737	8	1	728	737

図 Ⅷ-15

抗HIV薬の使用状況

1998/5/31現在

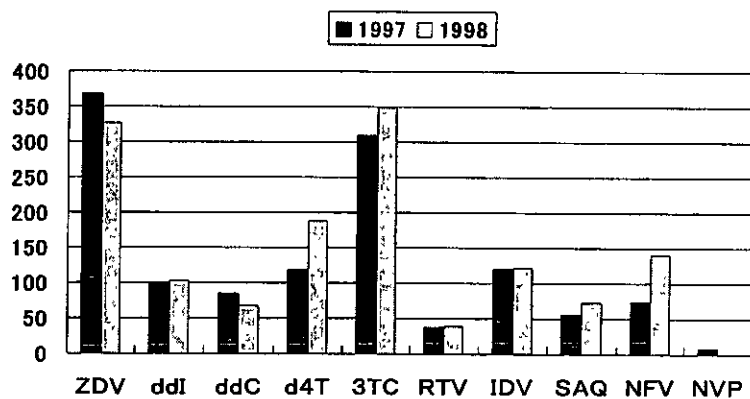


図 Ⅷ-16

抗HIV薬の使用状況

1998/5/31現在

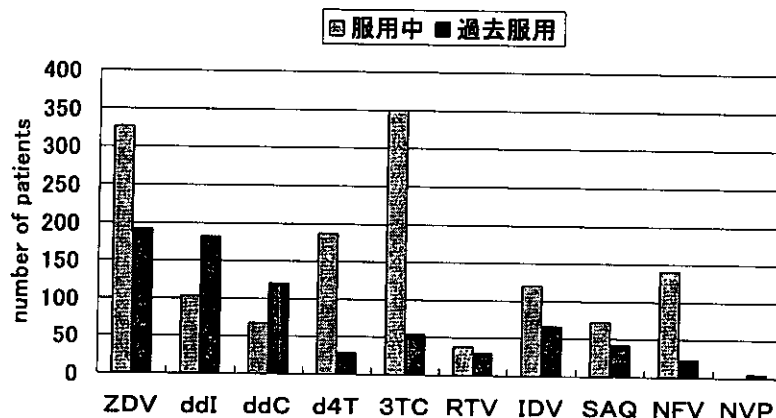
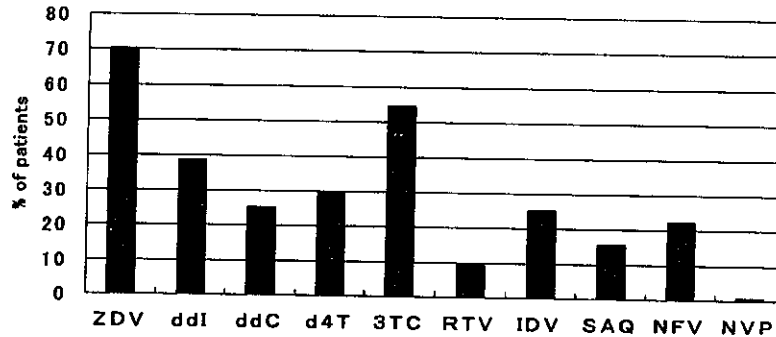


表 Ⅷ-16 抗HIV薬の既服用率

薬剤名	1998				1997			
	服用中	過去服用	服用者計	既服用率	服用中	過去服用	服用者計	既服用率
	人	人	人	%	人	人	人	%
ZDV	327	191	518	70.3	369	120	489	66.4
ddI	103	182	285	38.7	100	179	279	37.9
ddC	68	121	189	25.6	85	95	180	24.4
d4T	188	29	217	29.4	119	26	145	19.7
3TC	349	55	404	54.8	310	29	339	46.0
RTV	39	30	69	9.4	38	26	64	86.8
IDV	121	67	188	25.5	120	38	158	21.4
SAQ	73	43	116	15.7	56	15	71	9.6
NFV	141	24	165	22.4	74	9	83	11.2
NVP	0	5	5	0.7	8	1	9	1.2

抗HIV薬の既服用状況

感染者における服用中および過去服用患者の割合
1998/5/31現在



9. 主な薬剤と組み合わせ

抗HIV療法の処方として最も多かったのはZDVと3TCの2剤投与で76件登録された。そして、d4T+3TC+NFVの69件、ZDV+3TC+IDVの61件であった。

表 Ⅷ-17 抗HIV薬の使用状況と処方

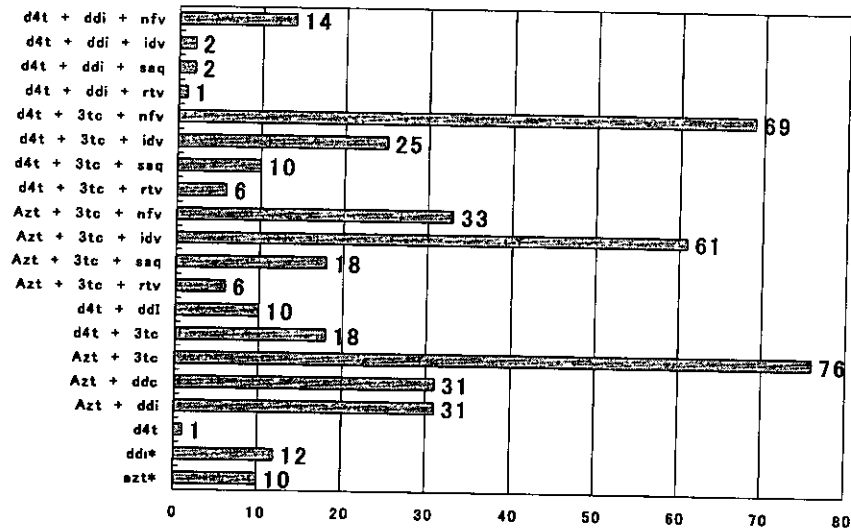
1998/5/31現在

	薬剤数	薬剤	人数
抗HIV薬	単剤	ZDV*	10
		ddI*	12
		d4T	1
	2剤	ZDV+ddI	31
		ZDV+ddC	31
		ZDV+3TC	76
		d4T+3TC	18
		d4T+ddI	10
	3剤	ZDV+3TC+RTV	6
		ZDV+3TC+SAQ	18
		ZDV+3TC+IDV	61
		ZDV+3TC+NFV	33
		d4T+3TC+RTV	6
		d4T+3TC+SAQ	10
		d4T+3TC+IDV	25
		d4T+3TC+NFV	69
		d4T+ddI+RTV	1
		d4T+ddI+SAQ	2
d4T+ddI+IDV	2		
d4T+ddI+NFV	14		

図 VIII-18

主な薬剤の組み合わせと服用者数

1998年



10. 服用薬剤数別検討

1998年の服薬薬剤数により分類し、1997年と1998年のCD4陽性細胞数の調査結果から中央値を比較した。4剤服用群で61個(37%)の増加を認めた他には明らかな差はなかった(表VIII-18 図VIII-19)。

一方、血漿中HIV-1RNA量の中央値の比較では、未治療群で1600コピーから2900コピーへ増加し、3剤群、4剤群でそれぞれ1000コピーから430コピーへ、5500コピーから530コピーへと減少した(表VIII-18 図VIII-20)。

CD4陽性細胞数が200個未満の患者数は全体で1997年の162人から1998年には140人と22人減少した。治療薬の数で分類すると未治療と1剤治療群では1人ずつ増加しており、3剤4剤群で減少した(図VIII-21)。

血漿中HIV-1RNA量が400コピー/ml未満を示した患者数は全体で1997年の213人から1998年には250人と37人増加した。治療薬の数で分類すると未治療で11人と1剤治療群で1人減少したが、2剤、3剤、4剤群でそれぞれ8人、34人、7人増加した(表VIII-18 図VIII-22)。

表 Ⅷ-18 服薬薬剤数別にみた治療効果

1997年と1998年の両年にCD4とRNAのデータがある596例について

1998年の薬剤数	総計		0		1	
	1997	1998	1997	1998	1997	1998
患者数	596		129		19	
CD4平均値	352	361	517	491	420	428
CD4中央値	336	340	478	461	385	363
CD4 (200>) 人	162	140	10	11	2	3
RNA平均値	22531	11852	14721	14682	4086	15610
RNA中央値	1000	805	1600	2900	1400	1500
<400c/ml(人)	213	250	41	30	6	5

1998年の薬剤数	2		3		4	
	1997	1998	1997	1998	1997	1998
患者数	161		265		21	
CD4平均値	371	373	271	298	169	231
CD4中央値	356	360	252	255	163	224
CD4 (200>) 人	27	24	107	92	15	9
RNA平均値	3530	4638	22189	14322	237687	13726
RNA中央値	670	630	1000	430	5500	530
<400c/ml(人)	66	74	98	132	2	9

1998年3剤服用群について1997年の服薬数による追加分析(再掲)

1997年の薬剤数	0,1,2		3	
	1997	1998	1997	1998
患者数	78		177	
CD4平均値	300	320	259	289
CD4中央値	286	293	228	246
CD4 (200>) 人	27	25	75	63
RNA平均値	28030	7978	20712	17796
RNA中央値	2450	400	670	580
<400c/ml(人)	20	44	74	81

图 VIII-19

治療薬剂数別CD4陽性細胞数中央値 1998/5/31現在

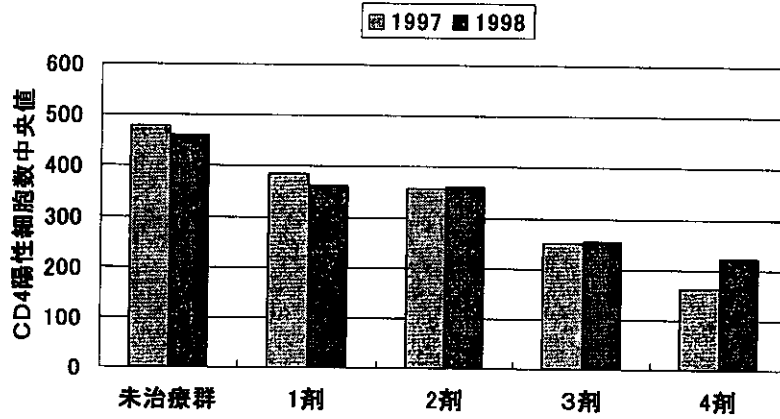


图 VIII-20

治療薬剂数別HIV-1RNA量中央値 1998/5/31現在

